

大屋祐雪前学長に名誉教授の称号



5月14日(木)午後、学長応接室において、大屋祐雪前学長に名誉教授の称号が授与された。本学7人目の名誉教授。

大屋前学長は、1992年4月から1998年3月までの6年間、本学の学長として在職され、その間、国際交流では、オーストラリアの名門、グリフィス大学、クイーンズランド大学の2大学と友好校協定を結んだほか、3名の外国人教員を本学専任教員として採用することなどに尽力された。また、地域研究では、北九州大学との関門地域共同研究を推進され、さらに、講義や図書館施設の市民開放、学友会館の建設実現など、本学の学長として、大学の運営に顕著な功績を残された。

これらの功績に加えて、カリキュラムの改革、人事、研修等の学内諸規定の改革、さらには研究室、教室の冷房化、学内LANの導入など、本学の研究・教育環境の向上に、目に見える功績を残されたことも忘れることができない。

大屋祐雪前学長から書籍の寄贈

大屋前学長から、本学図書館に書籍が寄贈された。約600冊近い書籍は、大屋先生の専門である統計学、統計資料等にとどまらず、経済学、哲学関係のものも含まれている。図書館では、大屋先生のご意向もあって、単独の文庫形式にはせず、開架書架に配置し、学生が広く自由に閲覧、貸出できるように配慮した。寄贈本には「大屋祐雪氏寄贈」の記載がある。

穴見博元教授からも叢書の寄贈

1982年10月から1990年3月まで、本学で農業経済論を担当された穴見博元教授から、9種類の叢書等が寄贈された。農業総合研究所『農業総合研究』(創刊号—第46巻)、同『研究叢書』(創刊号—第113号)など、全巻号が揃っており、本学図書館の貴重な財産の1つとなろう。

英国留学記

川 本 忠 雄



ロンドン大学 SOAS (東洋アフリカ研究院) の正面入口

私は1997年4月から1年間、ロンドン大学 SOAS (東洋アフリカ研究院/大英博物館北隣) に留学し、毎日、市内西部のアクトンから40分間、地下鉄(チューブ)で通った。

ロンドン是世界一の多民族都市であり、多くのエスニックグループ(民族・人種・文化)からなる社会である。例えば私の家主は、アルメニア人(ギリシャ正教徒)、両隣はイングランド出身だが、前はアラブ人一家、いつも行く郵便屋はパンジャブ(北部インド)人、煙草屋はケニア出身である。

地下鉄内でも、一車両に50名乗車しているとして、少ない時で5~6、観光シーズンともなると、10以上のエスニックグループ数である。日々の地下鉄構内の演奏者達の音楽も楽器も人種も実に多彩で楽しい。ロンドンでは日々、皮膚感覚で、民族・国家・地域・市民社会について考えさせられる。日本人は永い間、四つの島の中で、ほぼ同一エスニックグループが暮らしてきた。初来日の外国人が驚くことは、どこでも日本人だらけのことだという。さもありなん。大多数の日本人にとって、国際化ということを肌身で実感することは、かなり難しいと思う。

突然であるがソ連崩壊後に、the Commonwealth of Independent States (CIS) が成立した。日本ではこれを「独立国家共同体」と称している。しかし現代におけるコモンウェルスというのは、英連邦(the Commonwealth of Nations) の例から推測できる様に、強制力のない仲良しクラブの様なもので、「共同体」の様に、求心力・有機性を感じさせるものでない。この訳語(共同体)だと現実理解が曇りはしないか。民族や国家というものに対して、日々、鋭敏になる必要がない日本の風土が、言葉・概念の厳密性への希薄さを生じさせていると思う。

国際化への対応は、他民族の歴史・文化に対する理解の深化に尽きる。それも単線的ではなく、複眼的・多層的にと願う。

カナダ政府奨学生として 大学院に留学

河 野 美知子

この度、カナダ政府の奨学生(Government of CANADA Award) に選ばれ、カナダ東部、ノヴァスコシア州のケープブレトン大学に留学することになりました。この奨学金は、大学院コースおよび博士号取得直後の研究に支給され、研究分野は、芸術、社会科学、商学、自然科学などです。日本国内全域から募集され、16人が選抜されました。選抜基準は、応募者の学術的メリットおよびカナダでの研究の正当性です。奨学金には、渡航費、12カ月間の学費、生活費、保険料などが含まれています。

ケープブレトン大学は、市大の様に小規模な大学ですが、地域の経済開発や社会政策に直接に参加することで重要な役割を果たしていると同時に、世界とつながったユニークなプログラムを提供することでも定評があります。例えば、メキシコのユカタン半島地域ではマヤ民族独自の経済開発プロジェクトにアドヴァイスを与えています。

ケープブレトンというと、日本国内ではあまり知られていないようですが、ルイスバーク砦という観光名所があります。かつてのフランス軍の要塞で、数年前にカナダ政府が巨額の費用をかけて修復しました。このプロジェクトに関わったのはカナダ国立公園省で、そこで働いていたマクレーン先生は、現在ケープブレトン大学で教鞭をとっています。私はこの施設をプロモートすることによって、地域経済開発を目的としたMBAの研究プロジェクトにしようと思っています。

(1997年度デウィットゼミ卒業生)

外国研修

オーストラリア英語研修を終えて

国際商学科2年 末 宗 真由美

今夏のオーストラリア研修で、私達は多くのことを学び、貴重な体験をした。私達は7月中旬から4週間ブリスベンにあるクイーンズランド大学付設の英語教育機関で英語を学んだ。この大学は学生数2万人を超え、留学生も多く、私達と同じように英語を学んでいる人も多くいた。その後ケアンズで3日間のホリデイを満喫した。

ブリスベンの冬は下関の春秋のような気候で、大変過ごしやすい。オーストラリアといえばコアラ。縫いぐるみのようにかわいいコアラを抱いて、皆感激した。ケアンズでは珊瑚礁の広がる海で熱帯魚と一緒に泳いだ。オーストラリアでの出来事は何もかもが新鮮で感動の毎日だったが、中でもホームステイ先の家族と過ごした日々が私にとって最も深く心に刻まれている。日本と全く違う環境の中で1カ月も生活するということが、最初は不安な気持ちで一



杯だった。しかし、そんな不安もすぐに消してくれる暖かい家族のおかげで、楽しい毎日を送ることができた。自分の言いたいことを英語で伝えるのは非常に難しく、会話にならないことが多くて悔しい思いをしたことも度々ある。そんな時もいつも真剣に聞いてくれ、励ましてくれた。今では本当の家族のように思っている。

4週間では英語を十分に習得することは出来なかったが、この英語研修に参加したことは自分自身が大きく変わるきっかけになり、大変プラスだったと思う。短期間だったけれど、私はこの大学で勉強できたことを誇りに思っている。

南京大虐殺記念館をみて

国際商学科4年 市原聖児



1937年12月13日、日本軍は南京を占領し約30万人の中国人を虐殺したといわれている。青島大学での10日間の研修の後、今回その記念館を見学することができた。広い敷地内の到る所で30万という数字が目にとまる。建物内では、日本兵に怯える子供達、山積みされた虐殺後の死体、全裸で逃げまわる女性の姿等がパネルで展示されており、当時の状況が生々しく伝わってくる。また敷地の一角には犠牲者の遺骨が並べられており、ひどい臭気も漂う中、そこはまさに地獄であった。

この記念館には南京大虐殺について認識がない者でも存分に理解できるほどの資料が備わっている。一体どのくらいの日本人がこのあまりにも筆舌につくし難い惨劇の本筋を理解しているだろうか。ほとんどの人が教科書レベルの知識しか持ちあわせていないだろう。

私は少しでも多くの日本人にここを訪れ、南京大虐殺当時の状況を感じて欲しいと思うと同時に、それが虐殺された30万人への私達が出来る唯一の償いであるように思った。

今回同行したメンバーの中には、見学中気分が悪くなった者もいた。しかし私を含め全員が、この研修の中で最も貴重な体験として受けとめているに違いない。

景福宮での出来事

経済学科2年 林智子



韓国に研修に行ってみて、私は多くのことを学びました。その中でも最も印象的だったことは、旅行4日目にソウルの景福宮へ行った時のことです。私たちが入り口から入ってすぐの所で一人の老人に会いました。その老人は私たちが日本人であるということを知ると、途端に持っていたつえを振り回して韓国語で怒り始めました。早口で何を言っているのか全く分からず、私はびっくりしていました。先生とガイドさんの話によると、昔日本人が韓国に来て、韓国を支配した時のことを言っているとのことでした。研修に行く前に先生から、このようなことがあるというのを聞いてはいたけれど、実際にこのような体験をしてみても、とても勉強になりました。もしも私が研修ではなく、ただの観光で行ったのなら、私はわけが分からずにきっと嫌な気分になっていただろうと思います。

この老人に出会って話を聞いて、教科書にはのっていない事実をたくさん知ることができました。今後私たち日本人が韓国でもどこでも外国を旅行する時は、その土地についての知識を少しでも身に付けて行くことが、その国に対しての礼儀なのだと思います。

前期・中期日程で実施

1999年度入試の概要

◇推薦入学

○全国推薦・地域推薦

1998年11月23日(月)小論文

◇特別選抜

○帰国子女特別選抜

1998年11月23日(月)小論文/面接

○社会人特別選抜

1998年11月23日(月)小論文/外国語/面接

○中国引揚者等子女特別選抜

1999年1月25日(月)小論文/面接

○外国人留学生

1999年1月25日(月)小論文/面接



入試説明会・キャンパス見学会

6月24日(水)、地域推薦に出願のある高等学校を対象にした入試説明会が行われた。今年は、対象校を一般の高等学校のほか高等専修学校、朝鮮高級学校まで広げ23校から29名の進路指導担当者が出席した。説明会では、98年度入試結果、99年度入試の概要、小論文の出題意図と採点基準について入試委員から説明が行われた。さらに、本年は就職委員長から昨年度の就職状況、本年度の現状、職場開拓、就職対策講座の開設など、本学独自の就職指導の説明があり、高等学校の先生方からも真剣な質問が出された。

また、夏休み中の8月18日(火)、キャンパス見学会が行われ、高校生、保護者、学校関係者など173名が参加した。例年になく、多数の参加があり会場を233番教室に変更するほどだった。見学会は在校生との学内見学、懇談会、吉津教授による模擬講義、米田入試副委員長の入試説明、川本就職委員長の就職状況説明が行われ、熱心にメモをとる参加者の姿が印象的だった。

◇一般選抜

○前期日程

1999年2月25日(木)下関・大阪

教科・科目および配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)を選択	小論文	800点
済	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1 最も高い得点の科目を300点満点に換算する。 2 2番目に高い得点の科目を200点満点のまま用いる。 300点+200点	300点	
学	・外国語(必須) ・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科から1科目(1教科)を選択	小論文	800点
科	【選択の仕方と配点】 1 外国語を300点満点に換算する。 2 外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を用いる。 300点(外国語)+200点	300点	

○公立大学中期日程(旧C日程)

1999年3月8日(月)下関・大阪・福岡

教科・科目および配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)を選択	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
済	【選択の仕方と配点】 すべての科目を200点満点に換算し、高い順に3科目(3教科)を用いる。 200点×3	200点	
学	・国語(国語Ⅰ・国語Ⅱ)、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)を選択 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
科	【選択の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1 数学か外国語のうち得点の高い方の科目を用いる。 2 上で用いた科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目を用いる。 200点×3	200点	

※前期・公立大学中期日程(旧C日程)とも「国語Ⅰ」は選択科目から除く。地理歴史と公民からは1科目のみ。

私の教育・研究

助教授 Todd J. Rutkin

I have been an instructor of English at Shimonoseki City University since April, 1994. Over the past four years, I have been researching, publishing, and presenting papers primarily in the area of second language acquisition and teaching with an emphasis on English education as a foreign/second language. Basically, I have been studying and researching how to most effectively teach, mostly to Japanese university students, American language—reading, composition, literature, oral communication, listening, etc.—and culture. Recently I have been focused on learner motivation. Specifically, I am continually striving to find the proper balance between learner needs and interests, and the constraints of pedagogically sound theory and practice.

Presently, I am collaborating on a project with another instructor at this institution concentrating on the dynamics of the classroom. Namely, through the employment of quantitative and qualitative analysis, we are attempting to determine whether and in what manner pair/group work—and student attitudes towards it—affect learner motivation, improvement, and overall success in the course.

In the future, I look forward to further exploring student attitudes and behavior towards learning in the hope of better comprehending them. In doing so, perhaps I can aid learners in improving their achievement and performance in the process of attaining their full potential.

新任挨拶

濱田 英嗣



10月1日付で東京水産大学から赴任した濱田です。専門分野は水産経済学という領域ですが、一言でいえば「人と魚と海の健全な関係」を持続的に保持するための経済メカニズム、法制度を論究する学問です。その中で、

私はとくに水産物マーケティングと海面養殖業をテーマとして活動しています。

「食歴」という言葉があります。日本人でいえば、若い時に肉類を旺盛に食べていても子供の時に水産物を食べていた食歴があれば、中年以降に肉類消費を減らし、水産物を食べ始めるという意味です。東京では目が飛び出るような価格の魚が、下関の小売店では豊富に安く販売されています（かつて学生時代に下関で釣りサバの刺身を食べた時の感激!）。立地を活かした、学生生活をエンジョイして下さい。講義は経済学部生が対象ということで、「食品産業」のおもしろさ、ダイナミックさを学んでもらおうと考えています。

私自身、仕事以外で近々予定している行動は、①濱田流のウニの炊き込みご飯を完成させること、②東京ではほとんどスポーツができなかったのが、運動を再開することです。よろしく。

黄 岩



暑い夏が過ぎ、いつしかそこはかたなく秋風が感じられる頃になりました。皆さんは、楽しい夏休みを過ごされ、新学期を迎え、よろこびの気持ちでいっぱいでしょうね。今学期、皆さんと一緒に勉強する機会を得、とても

うれしく思います。

下関市立大学は美しい学校で、校庭がきれいで、環境も大変すばらしいところです。そして、生き生きとした学生たちはみんな時間を惜しんでは、勉強しています。これらは私にとりましてとても印象が深い点です。

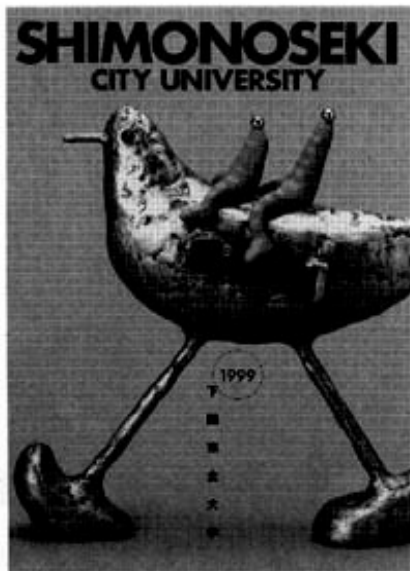
大学で勉強できるのは人生においてとても幸福なことだと思います。私達は若いのですから、その若いうちに、一生けんめい勉強して、多くの知識を身につけることが将来の準備として必要なのです。

大学受験当時を思い返しますと、それぞれの思いがあるでしょうね。大学に入るというのはたやすいことではありませんので、そのことを大切にすべきだと思っております。しかし、大学に入ってから、気持ちが緩んでしまい、そんなには一生けんめい勉強しない学生もいるようになります。もちろん、このような学生は少ないと思いますし、学生たちの多くは学業において成果を出すことができると思います。

一生けんめい勉強すると同時に、勉強のやりかたも大切なことだと思います。時間は命です。それを大切に、むだに費やさないでください。自分の才能を十分に発揮して、大学時代、自分のなすべき使命をやりとげましょう。

1999年版大学案内発行

新版の大学案内が発行された。今回は、2年に1度の大幅改訂版。表紙、目次等のデザインを一新し、これまでにないイメージに仕上がっている。



海峡都市圏をめざして

関門地域研究 VOL.7

『関門経済圏の産業構造——中間報告』刊行

堀 内 隆 治

関門地域共同研究会（本学産業文化研究所と北九州大学産業社会研究所との共同研究）による1997年度研究成果が刊行され、7月17日、山口県国際総合センターで約40名の関係者の参加の下、研究報告会が開催された。

今年度の研究課題は関門両市を「海峡都市圏」と位置付けた上で、その産業基盤を明らかにしようとするものである。調査は関門両市に所在する製造業1,678企業、卸売業1,579企業へのアンケートを中心に行われた。アンケート回答は中小企業を中心に製造業598企業（36%）、卸売業654企業（41%）に上り関心の高さを窺わせた。

研究のテーマは「関門経済圏の分立と連携」に置かれているが、関門両市産業が相手地域との取引への期待を持ちながら、しかし、情報交換の不足など日常的な付合いの不足から、未だ十分な連携をなしていない現実が浮き彫りになった。研究は今年度に引き継がれ、連携の課題、対策を具体的に検討する作業が始められている。

『下関市立大学研究者総覧1997』発行

自己点検・評価委員会の編集による本学の『研究者総覧』が発行された。1998年3月在任者に、1998年4月および10月着任者の7名を加えた、総勢56名の研究業績等の総覧である。『下関市立大学研究教育活動報告1993』の「個人研究教育活動」の部分の改訂版。

教員と学生によるピアノコンサート



吹奏楽部ピアノセクション主催によるピアノコンサートが、厚生会館3階ホールで7月13日、休憩時間に開かれた。昨年5月に本学が下関市文

化会館からグランドピアノを譲り受け、7月にピアノ開きを行ったが、今回はこれに続くもの。

教員、学生6名の演奏者によるコンサートは、ポピュラー音楽、恩師の作曲になるものなど変化に富んだプログラムで、来場した学生、教職員を楽しませた。今後も開催を大いに期待したい。

『田主丸町誌』受賞

本学の堀内隆治教授、坂本紘二教授が執筆参加された『田主丸町誌（全3巻）』が、毎日出版文化賞と西日本出版文化賞を受賞した。【本誌22号、25号に著作紹介】

町誌でありながら、構成や編集方針、執筆者の方法論が、従来のレベルを超え、読み物、学術書としての評価を受けた。

第15回市民大学

語学・コンピュータ講座

◇朝鮮語会話初級講座

9月16日～12月9日（12回）毎週水曜日18:30～20:00

李 亮（下関市立大学常勤嘱託講師）

B講義棟229番教室 定員30名

◇英会話中級講座

10月1日～12月17日（12回）毎週木曜日18:30～20:00

マーク・フリン（下関市立大学常勤嘱託講師）

B講義棟229番教室 定員30名

◇コンピュータ（初心者のためのロータス1-2-3）

10月1日～11月19日（8回）毎週木曜日18:30～20:00

土屋敏夫（下関市立大学助教授）

電子計算機実習室 定員30名

私たちの暮らしと環境—安全と快適さを求めて—

◇環境問題基礎講座

いずれも18:30～20:00 B講義棟223番教室

10月19日（月）「技術環境」を考える

坂本紘二（下関市立大学教授）

10月20日（火）下関市の地球温暖化への取り組み

和田敏夫（下関市環境保全課主任）

10月21日（水）未来を奪う有害化学物質—ダイオキシンや環境ホルモンの危険性—

長山淳哉（九州大学医療技術短期大学部助教授）

10月22日（木）海岸線を活かすために—シドニーと

チンタオからのメッセージ—

G. チャイキン（下関市立大学講師）

陳 秋 紅（下関市立大学常勤嘱託講師）

10月23日（金）女性からみた暮らしと環境問題—

近に迫らない京都会議—

田中裕美子（下関市立大学講師）

◇シンポジウム “安全で快適な暮らしを実現するには”

10月24日（土）13:30～17:00

山口県国際総合センター 801 会議室

パネリスト：垣迫裕俊（北九州市環境局総務部主幹）

和田敏夫（下関市環境保全課主任）

高宮善之（下関青年会議所）

中野裕子（余暇生活開発士、ミズネット）

大石頼正（社団法人太陽光発電普及推進

協会副会長）

G. チャイキン（下関市立大学講師）

コーディネーター：坂本紘二（下関市立大学教授）

第37回大学祭のテーマは「ONE」

今年もまた大学祭の時期がやってきました。10/31(土)～11/3(火)の予定で下関市立大学大学祭、通称“馬関祭”が行なわれます。テーマを「ONE」、サブタイトルを「～それぞれのONEを探求せよ～」として、我々実行委員会も色々考えました。全員が一つにまとまり、それぞれ自分の目標をもう一度確認してもらいたいと思います。

- ・10月31日(土) 前夜祭、ふく鍋1,000人分無料配布!!
- ・11月1日(日) 有田芳生氏講演会、体育祭
フリーマーケット

・11月2日(月) 演武会

・11月3日(火) THE BIG BAND!! いまさら花火

その他、書ききれないほどの様々な催しものを準備しています。是非足を運んで下さい。

楽しい大学祭がお待ちしております。

北京遠征を終えて

国際商学科4年 青森圭太



今年の大会は、4回目をむかえ、また日中友好20周年の記念で、日中共に白熱したすばらしい大会でした。中国の野球は、日本よりも遅れているという話は、聞いてはいましたが、いざ試合をやってみるとレベルの向上の速さに驚かされました。ボールにくらいつく姿勢は、見習うべき所でした。全体的に見ると、日本と比べ守備にやや難があり、また試合運びにおいては劣っていると感じました。全4試合中国チームと戦い私達西日本選抜チームは、2勝2敗という結果に終わりましたが、試合を重ねるにつれ選抜チーム特有の壁を乗り越え、チームワーク抜群のチームに成長しました。

今回の遠征でまた楽しみであったのが、中国の歴史や文化に触れることでした。中国の様々な観光地で日本では味わえない雄大さに驚かされました。

今回の北京遠征は、自分にとって初めての海外であったので、世界の広さを認識することができ、また今後の自分の成長の糧となると確信しています。16年間続けた野球

が、友好の手段として役立ったことに、改めて野球のすばらしさを感じました。ほんの1週間の遠征ではありましたが、この体験は、自分にとって何十年分もの価値があったと思います。最後に、今回の北京遠征において御支援していただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。

準硬式野球部3年連続全国大会出場

準硬式野球部が、春季中国リーグ戦で優勝し、3年連続して全国大会に出場した。8月9日(日)に、仙台市の岩沼海浜公園野球場で、強豪法政大学と対戦したが、13対0で敗れ、初戦突破は叶わなかった。

生協にニューフェイス



生協にニューフェイスが登場している。久保元基さん、24歳。出身は香川県観音寺市、松山大学経営学部卒業。学生時代から生協にかかわり、現在は厚生会館の食堂を中心に仕事をしている。趣味はスキーとアマチュア無線。

「ウィンドウズ95のことならお任せ下さい」とのこと。

YAB 本学食堂取材

6月10日(水)、YAB山口朝日放送の取材陣が、厚生会館の食堂の取材に訪れた。山口県内の大学食堂の特集の一環。経済学科1年の津崎亮太君と、国際商学科1年の前岡圭子さんが、にわかレポーターを演じて本学の食堂を紹介した。内容は、6月18日(木)の「5時からワイド」でオンエアされた。



インターネット掲示板に「市立大学」

7月中旬以降、インターネット掲示板の「下関を熱く語る!!」に、「市立大学」をテーマにしたスレッドが開設されている。アドレスは次の通り。

http://www.tip.or.jp/bbs/msg/23726_12.html

『下関市立大学後援会』に名称を変更

本学の教育事業を援助する市立大学後援会（旧称・市立大学父兄後援会）総会が5月31日開催された。総会では、9年度会務報告・決算、役員改選、10年度予算、会の名称を「父兄後援会」から「後援会」に改める会則の変更などが承認された。

10年度予算は、9年度に比較し3.1%減額になったものの、就職斡旋援助費を引き続き充実させたものとなった。

10年度役員は次の通り。

会 長 登根征一

副 会 長 鶴原伸瑋 山本英三

理 事 津守賢三 日田 呈 福岡静江 中川久子

松本志づか 井丸芳明 久志田敦子

橋本 誠 石田陽俊 中野孝一 春若義明

監 事 正田聖事 藤野達郎

学内理事 財部忠夫 川本忠雄 山本興治 来見田隆英

藤本良明 梶間 晃

また、援助規定による表彰を6月9日、学長応接室で行った。

各種資格取得報奨（TOEIC 750点以上）

国際商学科4年 羽田野修

特別報奨（学校茶道体験論文 優秀賞）

経済学科2年 佐藤れい

部局だより

留学生歓迎会を開催



6月17日、学生部主催による留学生歓迎会が開かれました。科目等履修生のお世話をいただいている山口銀行人事部の方も出席され、教職員もあわせて約40名が参加、昨年に引き続いて盛会でした。

本年度入学の留学生は、4年間の学部学生が8名（中国6名、韓国2名）、1年間の姉妹校交換留学生が4名（韓国・東義大学校2名、オーストラリア・グリフィス大学、クイーンズランド大学各1名）、同じく科目等履修生8名（中国4名、タイ2名、トルコ2名）のあわせて20名です。

学友会館（仮称）建設工事始まる

本学念願の学友会館（仮称）の建設が、平成10、11年度の2ヶ年継続事業により武道館跡地で開始されています。総事業費6億円、鉄筋コンクリート造4階建、延床面積は約2,300平方メートル。主な機能は、1階が本部系事務室、2～3階が部室、4階が武道場で、外壁には、フリースライミング施設を設置し、既設の厚生会館と2階部分で連結します。完成は平成12年3月の予定です。

工事期間中、立入禁止区域の設定や通行規制が伴うので十分注意しましょう。

9月補正予算でインターネット端末機導入決定

9月補正予算で、12台のインターネット端末機の導入が決まりました。ネットワーク教育や就職活動支援のために活用していく予定です。

設置場所は、学術センター地下の電子計算機実習室。12月から利用出来るように作業を進めています。

授業で使用しないときは、学生に開放する予定です。利用の範囲や方法については検討中ですので、決まり次第お知らせします。

図書館からのお知らせ

○ 図書館では希望図書の購入を、いつも受け付けています。

カウンターに購入申込書を備え付けていますのでどしどし申し出下さい。

○ 図書館では「利用者の声」の箱を10月に設置する予定です。図書館に対しての意見等がありましたら、ご投函下さい。

○ 学術センター内での携帯電話の使用は禁止しています。センターに入るときは、必ず携帯電話のスイッチを切して下さい。

編集後記

前号から、第1面の題字を横書きに変更しています。中山尊教授に新題字の揮毫をお願いしました。縦のものを横にするくらい訳もない、と思うのは素人の浅はかさ。大層ご苦労された由、どうもありがとうございました。

横書き変更とあわせて、題字を色刷りにし、紙質もカラー印刷に耐え得るものに変更しています。カラー紙面でお届けできる日も、そう遠くないことでしょう。

『下関市立大学広報』の第1号が発行されたのは、1988年5月27日だそうです。今年、10年の節目を迎えているわけですが、これからも、下関市立大学に密着した公式広報誌であり続けたいと思います。（に）